

京交山岳部報

No 397

' 85 11月号

【第1558回例会】 紅葉を求めて 果無山脈最高峰

笠原山1等△と牛廻山 (T)

日 時 11月2日(土)~4日(祭) 土曜日 午後出発予定
コ ー ス 京都-橋本-竜神スカイライン-寺垣内...△1155.4...冷水山△1262
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 722)
備 考 この山は昭和46年 第26回和歌山国体の登山コースです。今年の秋山として多数参加してください。

【第1559回例会】 府県境シリーズ(60-7)

鹿倉山 (R)

日 時 11月3日(日) みぶ 7時出発
コ ー ス 京都-周知-菟原...林道...鹿倉山
担 当 者 烏丸 大倉寛治郎(TEL 889)

【第1560回例会】 北山

桑谷山 (R)

日 時 11月17日(日) みぶ 午前8時集合
担 当 者 OB 津田 実(TEL 798)
備 考 昨年国体ルート of 調査をしたコースを見に行きます。

【第1561回例会】

武奈ヶ岳 (T)

日 時 11月23日(祭) 7時 三条京阪 京都バスのりば集合
コ ー ス 坊村...御殿山コース...西南稜...武奈ヶ岳...八雲ヶ原...北比良峠...ダケ道...比良駅
担 当 者 本局 川原傳治(TEL 738)

〔第1562回例会〕 美濃

霧山

(T)

日 時 11月24日(日) みぶ 6時半出発

コ ー ス 京都一大垣一岐阜一板取川上流…霧山

担 当 者 本局 鷺見敏一(TEL 854)

〔第1563回例会〕 府県境シリーズ(60-8)

櫃ヶ岳と雨石山

(T)

日 時 12月1日(日) みぶ 7時出発

コ ー ス 京都一園部一須知一安井一南谷…櫃ヶ岳

担 当 者 本局 岡田茂久(TEL 2-3282)

今月の集会

11月11日(月)

下鴨寮

企画運営リーダー会

11月20日(水)

鷺見宅



雨、雨、雨

岡田茂久

いつのまにか時折に肌寒さをおぼえる頃となり、トレパンの上着をひっかけ我家のグウタラ犬の散歩に出かけた。ここしばらく雨つづきで連れてもらえず犬もふてくされ、小生が帰宅しても寝そべったまま小屋から頭だけだし上目づかいに、フン!。せめてのご機嫌とりに暗れ間をみて散歩につれたした。暗夜にふくいくとした木犀の香りがただよい、ひさしぶりに甘い気持ちにひたろうとしていると、「お父ちゃん! お便所のいい臭いがする」と下の娘。「サワデーとちゃうゆんじゃ。又、落ちだした雨滴に足をはやめる。

それにしても今年は雨づいている。でかける山行はほとんどが雨、某雨男の名を引継ぎそうな筈配である。大洞山、尼ヶ岳、赤兎山、鉄鉆山、ファミリー登山の大江山、八ヶ岳、おまけに愛宕の千日参りでも山麓までに夕立ですず濡れ。「京交の山行きには晴れ雨の区別はない」とはいうもののいいかげんうんざりする。秋になればと期待してれば、藤内壁、美濃釈迦嶺、丹波烏帽子、夫婦岩と休日になれば狙ったように雨、々、々。だれかアマガエルをいじめたか、そういえば雨乞の滝といわれる所で小便したやつを知っている。

初秋は、まだまだ勢力の弱い大陸の高気圧は、移動性の高気圧となって日本列島の北寄りを次々

に通過する。また夏のあいだ日本列島を炎暑で支配しつくした太平洋高気圧は、まだ南方洋上に留まり両高気圧との間では前線が発生し易く、両高気圧の強弱で前線が本州付近に停滞したり、北上がったり南に下がったり異常な低気圧も発生、晴れたり降ったりし、ちょうど梅雨のようなぐずついた天気となる。

これを秋霖といひ年間を通じても降雨日の多い季節である。しかも秋は台風の季節である。もし台風が前線に接近したりすると、前線を刺激し大雨となる。又、前線の影響は山岳地帯に大きく、晴天かと思えば濃霧や冷雨がつつき低温を伴うため、初秋の雨と油断し寒さに震えあがった経験の部員諸氏も少なからずありであろう。これを原因とする遭難事故も決して少なくないので注意したい。

ところで先般の山行の折、どしゃ降りの中での雨量の話がでた。10mmの雨量というのは、どんな面積でもよい10mm雨水が溜まったということである。雨水量をだす場合は1cm²の面積に10mm溜まれば1ccである。10mmの雨が1m²に降れば、その量は10ℓで灯油缶約半分となる。雨一滴の径は2~4mm 豪雨で5mm以上といわれている。4mm径の雨滴の量は、0.033cc約30滴で1ccである。10mmの雨では1m²に30万滴落ちることになる。通常テレビの天気予報で雨の降る確率では、1mm以上の雨を対称としている。雨滴にすると1m²に約3万粒。普通の男傘(0.8m²)に約2.4万粒で雨という勘定になる。

一般的には20mm/1時間・100mm/1日を越えると豪雨としている。今、200m×200mの運動場に20mm/1時間の豪雨が降ったとすると、その降水量はドラム缶(200ℓ入り)にして4000本にあたる。いかに多くの水量であるか見当がつくだろう。これが広範囲に降ったとすると、山では谷が大増水し、鉄砲水や崖の崩落等を起こすのもうなずけるものである。

ちなみに先般の赤兎山々行き折の集中豪雨は20mm/1時間であった。しかし57年7月の長崎集中豪雨の大災害ではなんと187mm/1時間。すなはち1m²の土地にドラム缶1本弱をぶちまけた量でこれが何時間も降り続いたのである。もし京都盆地にこんな雨が降ったと想像するだけでも恐ろしい。

明日の山行きの天気を憂慮しながら、こんな計算などをしていりうちに早や11月。大陸の高気圧も優勢な安定期に入り、“晴天万里”の季節。いままでのうさを忘れ、さあ！ 山行をかせごう。

第1549回例会

鎌倉山

大倉寛治郎

今回の山は、京都市左京区と天津市坊村との境界上にあり、ここでは3度目に高い山である。8月17日、烏丸車庫北門に午前6時に集合し、武田氏の車に参加者計5名が同乗して出発した。谷をつめて登る事になり、坊村へと向う。安曇川にかかる橋を渡り管理事務所の駐車場に車を止め

ここで沢登りの準備をし、高度計を305mにセットし出発する。約2分ほどで鎌倉谷の橋へ出、渡って左側の樹林の中に谷へ入る道がある。踏跡もありまちがえる事はない。谷にそって道が続いており途中には、水の取り入れ口がある。全員、ワラジをつけ谷に入る、エン堤を2つ越し、沢を登高すると40分位で左より入ってくる大きな出合に出る。高度432m、登山道は右岸にみえる。繁った沢をさらに行くと丸木橋がある。(ここから左岸に渡り、ジグザグ登ると尾根へ、又、植林の中を行くと頂上へと出る。) 沢と小滝をつめて行くと7m位の滝に出る。安全第一にとザイルを出す。山口君にザイルの操作・確保などを教示し、滝を登高する。段々になった滝や廊下状の滝などがあり、2年ぶりの沢登りは感懐もひとしおであった。地図、地形、そして高度計で確認しながら谷をつめ頂上へと進む。高度650mより右に取る。800m位までくると水も切れ、登るにつれ、熊笹のプッシュがきつくなる。左の斜面に取り付き、尾根へ出ると登山道があり10分ほどでようやく頂上についた。鎌倉谷山・三等三角点950.5mである。廻りには記念のプレートが数個あり山名も鎌倉谷山と鎌倉山とある。展望は望めないが、樹林にかこまれた頂上で、皆、思いおもいの昼食をとり一休みする。本日の参加者の中で一番若い山口君に感想を聞いてみる。「谷はよかったがプッシュをこいで頂上までの数分間は苦勞した。」との事である。

下山は、比良の武奈ヶ岳を望み、登ってきた谷を見ながら、一般登山道を下る。途中伐採や植林でしげって不明な路もあるが、さがしながらジグザグに下り、丸木橋を渡ってはじめての谷の出合へと出る。安曇川で水あびをし、汗を流しスッキリとし帰路についた。

〔参加者〕 武田喜久郎、大槻雅弘、吉田 武、山口雅直、大倉寛治郎

〔コースタイム〕

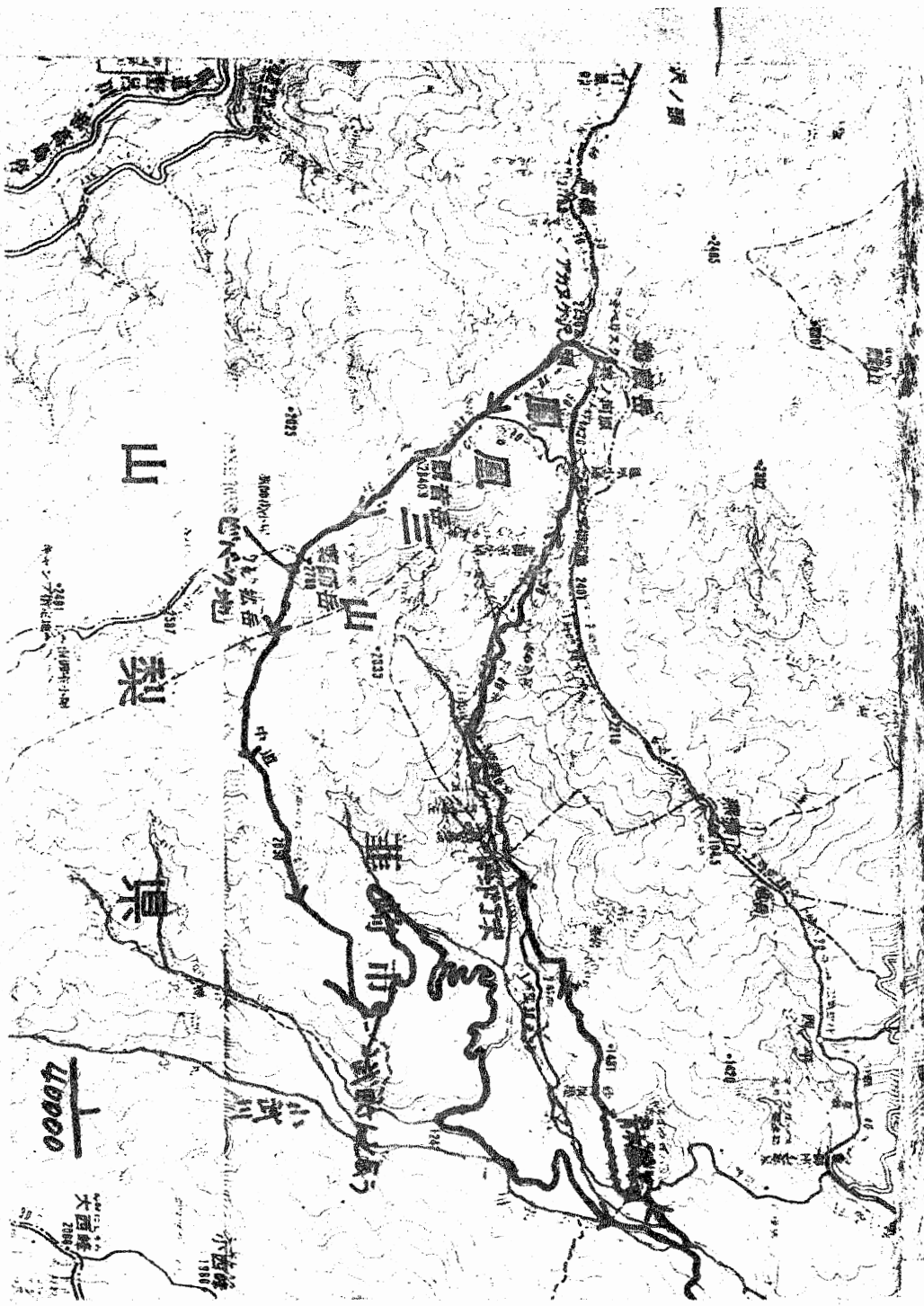
烏丸車庫北門 6:10 一坊村駐車場 6:50 ~ 7:00 ... 鎌倉谷に入る 7:12 ... ワラジをつける
7:20 ~ 7:30 ... エン堤をまく、第一回 7:40 ~ 第二回 7:50 ... 高度 432、南谷の分岐 7:53
高度 700m 9:20 ... 高度 740m 谷の分岐 10:08 ... 尾根へ取り付く 10:57 ... 三角点 11:07
~ 12:00 ... ジグザグに下る 12:27 ... 谷に出る 12:40 ... 南谷の出合 13:00 ... 駐車場 13:25
~ 14:00 - 烏丸車庫北門 15:00

第1552回例会

鳳 凰 三 山

梅津 吉田 武

鳳凰三山と白根三山とは山域が近いためよく間違える山である。「北岳、間ノ岳、農鳥岳」の白根三山を縦走した時に、いつかは夜叉神峠より縦走したいと心に思っていた山域である。本来なら笛吹川へ沢登りにいくつもりであったが、持病の腰痛が出さそうな気温なので、今回は「鳳凰三山」に行く事にきめた。仕事のため都合のつかなかった人には申し訳ないが、武田さんと古市さんの3名で、14日の午後より出発した。いつもながら走りなれた中央高速を、今回は須玉インターまで



走る。インターを降りて国鉄中央線を渡りR20号より青木鉱泉に入る。午後出発で丁度よい時間につく距離である。(ただし、高速道路90%以上) 青木鉱泉の近くの広場にテントを張って寝る事にした。天候は思わしくないようだが早々に就寝する。

AM6時に出発する。青木鉱泉より地図ではドンドコ沢にコースがついてあるが、昭和57年の台風で登山道が寸断されて通行止めになっているので、鉱泉よりすぐ尾根にジグザグに急坂の道が作られていた。一汗も二汗もかく急坂で、ほんとうにドンドコ登山道である。南精神ノ滝までに2度程休憩して、出発してから約2時間でついた。落差80m、2段に別れ、下部ではぬじれた滝になっていた。標高1700mの所で武田さんが調子が悪くてふらふらすると言ひ事なので休憩して様子をみたが、あまり良くなりず、この先歩く自身がないと言っておられるので、登るか、下山するか迷ったが、武田さんにはゆっくりと下山してもらい、僕等は登る事にした。(ほんとうにすみません) 武田さんと別れて15分程で白糸ノ滝についた。少し休憩して、又、ドンドコ・ドンドコ登った。次は五色ノ滝で落差60m位かなあ、垂直に落下している。暫く行くと川原のゴロ地帯で大きな石に赤ペンキで矢印がしてあった。15分程で鳳凰小屋についた。連休のせいか多くの人が休憩していた。僕等も昼食をしてこれからの登りに備える。ここから地蔵岳の1時間が又、急坂で食事の後なので大変こたえる。それでも50分程で地蔵岳オベリスクの基部についた。ガスと雨の中なのでオベリスクに登るのをやめて先を急ぐ事にした。景色もなにも見えないので歩くしかない。地蔵岳より1時間で二等三角点のある観音岳についた。この縦走路は天気良かったらルンルン気分で行けるコースである。写真を写して次の薬師岳に向った。30分程で薬師岳についた。下山コースの中道を偵察してからテント地をきめた。丁度、薬師岳の肩に砂地で大きな岩の陰にテント地を見つけた。

明日の行程は下山に5時間とマイカー5時間で京都まで帰れるので、この地にきめた。AM6時に出発した。天候が良ければ、白根三山を見に薬師岳まで登る予定だったが、相変らず雨が降っていたので早々に下山した。昭和57年の台風の爪跡らしき倒木が多く歩きにくかった。武田さんと別れる時に、出来れば林道まで迎えに来てほしいとのんでおいたので、林道に出て5分程歩いたら武田さんと会った。中道コースは大瀬沢の林道に出るのが本当なのに、ドンドコ沢の林道と中道コースがドッキングしていたので、実際には武田さんとは会えないはずなのでしまったと思ったが、流石にルートファイティングの名手であった。ほんとうに助かった。着換えを済ませて小武川に別れを告げて、R20号を小淵沢まで行き、中央高速の小淵沢インターより京都へ帰路した。

【参加者】 武田喜久郎、古市昌造、吉田 武

マイカー保険について

最近マイカーによる例会山行が多くなってきていますので、マイカー保険の加入状況を把握する為、保険証書の写しを事務局(職員課 三橋)まで送付していただくようお願いします。

特にマイカーを提供していただいている部員の方は ご協力をお願いします。

鳥帽子山、夫婦岩

鷺見敏一

9月29日小雨の降る朝、集合場所に12人のサムライが集まって来た。最近の例会は雨が降ろうが槍が降ろうが集合することがあたり前になっている。(是非については、人それぞれの考え方があると思いますが。) 今日集まった12人は雨天など意に介していないのであろうか、全員が晴々とした顔である。市役所から参加された坂本氏に聞くと、昨日先聲格の荒田氏に今日の山行について問合せ所即座に返って来た答が、「京交の山行に晴とか雨とかは無いのや、行くのに決っているがな。」荒田先聲も分かってらっしゃる…。余談はこの位にして本題に入ろう。

7時過ぎ4台の車に分乗して出発。雨の国道9号線を走り、途中須知にて小休止。福知山市の新庄で左折9号線とわかれ檜峠に10時頃に着く。小雨の降る中、全員雨具を装着して344mのピークへ向かう。急斜面の木立の間をかきわけ登る軽い気持で登り始めたものの直登のため若干息きれのいたらく年のせいかな? 尾根に出て10分位で三角点に着く。歩き始めから15分、とりたてて報告する事もない程の三角点であるが、まずは本日一発目のバンザイを岡田部長の音頭にて三唱して早々に下山する。「10時30分」次の目標である鳥帽子山へ向って出発。はや稲刈りのすんだ田園風景をのんびり楽しみながら梨ノ木林道をつめる。林道はわりと整地されており巾員も広く走り易く、林道の終点まではそんなに距離もない。林道終点の地点から鳥帽子山へのルートは色々あると思われるが、我々は梨ノ木峠から尾根通しのルートをとる。終点から峠まで5分位で尾根の取付点である。若干ヤブこぎをして木立の間をかきわけ登ること15分位でヤセ尾根に出る。少し歩くと足元のしっかりしたゆり道になり、小さなピークを2~3箇所登りおりすること30分位で突然目の前が広がる。尾根を左にルートを取るとそこが頂上(△512.5m)である。三角点の周囲は広い台地状になっておりとても感じのいい所で見晴しも素晴らしい。丁度雨もやみ恒例の儀式、ヤングマン津田氏の音頭で本日二発目のバンザイを三唱し昼食にする。いつもながらレポートリーの多い食事で腹は満腹、幸せいっぱい。曇り空も晴れて眼下の景色が非常に美しく、さらに満足感に浸る。気分よし。林道終点地点までルンルン気分で行路を下山する。所用があり先に帰えらなければならぬ荒田氏と、途中バイパスルートの有料(¥350.)のトンネルを出た所で別れ速坂川にそって速坂峠へと向う。2時30分頃峠に着き車をホテルの駐車場に駐車させてもらう。三橋君の記憶では5年前と随分変わっているとのこと、(京都府下30山シリーズでの山行の時にはこんな立派なホテルではなかった。)現在は晴雨兼用のゲートボール会場が数多く設置され「温泉+ゲートボール」がセットの宿泊ホテルらしい。今日も数多くのお年寄りが楽しんでおられる。夫婦岩(△597.7m)へ向う準備をし出発する。三橋夫人と方山さんの2人は温泉につきりノンビリするとのこと。ホテルから少し歩き谷筋をつめ、5分位で左岸の尾根に取り付く。木立の間を

ヤブをこきながら直登すると尾根に出る。この尾根は「郡市界尾根」であり、「府県界尾根」と間違えないよう。下山のための目印をつけ、尾根通しに15分位で府県界尾根の分岐に出合う。このあとはしっかりした尾根道を行くと展望のひらけた夫婦岩の頂上に着く。眼下には夜久野の町並や9号線がくっきりと目に映る。本日最後のパンザイを三唱して往路を下山する。

ホテルにて温泉につかり着替えもすませて、さわやかな気分で帰路につく。参考のため「入浴料金 500円也」途中、名物の夜久野そばを賞味。京都市内帰着20時、本日の日程無事終了。

〔コースタイム〕

榎峠 10:06…△344.1m 10:15…車止 10:25…梨木林道 10:50～10:55…梨木峠 11:00
…△鳥帽子 12:05（昼食）～12:50…車止 13:40…遠坂峠ホテル前駐車 14:10～14:25…
稜線分岐 15:00…△夫婦岩 15:16～15:30…分岐 15:41…車止 16:02…鉱泉 16:10～16:30
夜久野 17:30—京都 20:00

過疎の小集落と、荒れたなが一い 林道の果に 辿り着いた 大長山・赤兎山登頂記

津 田 実

9月7日（土）14時京都東インター出発、瀬田川を越える付近から天候が怪しくなり野州川付近では猛烈に降り出した。反対車線を走るトラックはまるで水中翼船さながらに水煙を上げて通り過ぎ、大型トラックが追越したら水しぶきで一瞬前方は何も見えない。水中を走っているようで危険此のうえもない。それでも北陸道にはいると降ったり、止んだりとなって来た。だが肝心の山道にかかる頃は、又、降り出し狭い林道は濁流がうずまく仕末、これでは以前うちのパーティが通ったときと同じだ。此れ以上の前進は危険と引返し、偶然見付けた勝山市営、東山森の広場のバンガローを借りて一泊、各自持寄りの食料で賑やかに夕食をすませ、明日を期して8時頃全員就寝する。翌日は昨日の豪雨が嘘のような晴天になり全員元気よく出発、小原の集落入口に小生の車を止め、大槻さんの車で林道を進む。然し、此の道の悪いこと、どう車をもって行っても底を擦る恐れあり、大変な苦勞をして進む。その悪路の原因は砂防堰堤を作る作業で大型ミキサーカーが通るためだ。そこを過ぎると乗用車でも通行出来るようになった。

今日は此のコースの経験者が2人もいられるから安心だ。だが、落石の多い難コースで助手席の横井さんは、しょっちゅう車を降りて除石をしなければならない。大小の岩石が林道を塞ぎ、ときには全員で除石しつつ、前進、前進、先月号の部報に出ていた登山口に着く。黄色の作業用ゴム手袋が入口を示し、その横に立派な指導標が建っていた。林道脇に車が一台止っている。だが、此処で降りず直も前進、気が遠くなる程進んだところに小原峠、大長山、赤兎山と大書した立派な指導標があった。これが、アノ例の道標か、京都あたりでは見られぬ立派な材木に墨痕淋漓、見事な筆蹟である。余程の名筆家の手によるものと覚える。 閑 話 休 題

小原峠は、越前小原から加賀市ノ瀬に通じる塩の道だったのかも知れぬ。此処にも見捨てられた峠があった。だが、今は土地の人によって登山道に再生しているのだろう。小原峠から大長山へは谷の原流らしいもの2つ、峰を4つ越すと自然に辿り着く。登山の案内書ならこう書かれるところだろうが、仲間どうして、そう簡単なものではない。越えても、越えても前面に山があって仲間大長山らしい山容が出現しない。幾つも前衛の山を越すと、それらしき容貌と三角点の櫓が見えた。やっとのことで辿り着く。二等三角点1671.4m、前方の白山が見事であった。北西方向には護摩堂山、取立山、鉢伏山と続く峰々、後方にはこれから行く赤兎山が早くおいでと招いている。見事な景観を恣はしいまにしての昼餉程楽しいものはない。余り楽し過ぎると京都に帰る時間が遅くなるので重い腰を上げる。

往路、苜安山の標識を見落したから慎重に歩いたが、それらしい痕跡があったが確認出来ずに小原峠に着いた。小憩の後、残る赤兎山へと出発進行。此の径は2度目の三橋、大槻両氏が勇んで先頭を歩き出す。そのビッチの速いこと、速いこと。現役組に張切られては、白髪3名、赤兎山を目前にして敢えなく討死と相成っては面目なし、とはやる先頭を押しとどめ、手頃の枝を切って杖となし、及ばずながらと小生先陣を受け賜り必死の覚悟で急坂を登り出す。ところが何と歩き出して30分もせぬうちに赤兎山、山頂に着いて仕舞った。山頂は大長山からは赤兎山の影となっていた。山々がよく見え、山頂で逢った御老体から、あれが 願教寺山、よも太郎山、野伏岳と、先程登って来た大長山も以外に遠く見えた。然し、小生には1昨年登った白山、別山、三ノ峰の稜線、三ノ峰の避難小屋から六本櫓に通じる尾根を必死に降りたこと。鳩ヶ湯温泉に通じる林道で見た赤兎山登山口の道標と、山頂手前の指導標が指す鳩ヶ湯の文字、雲煙の彼方遙か、御岳が望見出来る。噫我、よくも歩いたり。来年は、念願の北岳に挑んで見ようと、思いを新たに小原へ降りた。

小原の集落は車で通過しただけだが、家々の建て方が木曾地方に見られる建て方で、越前と思えなかった。帰路立ち寄った白峰の家々も似ている。土地の誰方かに教えて欲しかったが。此れも雪国の建築様式なのだろうか？

越前の山は初めてだが、仲間沢山が多い。地理的にもそう遠くないし、次は雪の来る迄に越前甲をやりたいと思う。 同行の皆さん、ありがとう御座居ました。 合 掌

〔コースタイム〕

登山口 8:27…小原峠 9:08～9:24…大長山 2等△ 10:51～12:15 (昼食)…小原峠 13:17
～13:20…赤兎山 3等△ 14:16～14:20…避難小屋 14:35～14:40…赤兎山 14:56～15:08
…小原峠 15:30…車止 15:56

富士山と関東の山旅

OB 坂井久光

兼て東京の新ハイキングクラブからのお誘いで、神田の区民会館で一等三角点の話をしてくれたことで、9/15の夜行で出掛け静岡で一泊して9/16 8:30富士宮市の北海道トムラウシで知合った熊沢氏へ電話すると出迎えてくれていた。併し出発になると車が不調で日産へ電話して見てもらったが、すぐ直らず工場へ行き代車を貸りて出発。10時頃で五合目へスバルラインを通過して新五合目へ11時頃着いた。

朝青空が見えたのが曇って来て六合目に登ると風と共に霧雨が降り出し段々ひどくなって来た。六合目小屋(休荷)で昼食をとり、雨具をつけて出発。山頂へ3時前に着いた。測候所へ修理の人が来て管理人の酒井さん(福島)が世話をしており、一時休ましてもらって下山。三角点は最高峰の碑のすぐ横にあり2等△であった。展望なく風速30mはあったと思う。

下山中風で吹倒されたこともあり用心して低姿勢でひたすら下山した。18時に約束通り新五合目駐車場へ車で迎えに来てくれてその晩は熊沢氏の家で夕食をよばれてその晩泊めて頂き、翌朝富士宮駅迄送って頂き東京へ。その日は東京の京二商の同窓や商大の級友を会社に訪れ、中田会員と会ってその晩中田宅で泊り、翌日も岳友や級友を巡り山溪社を訪ねたりして夕刻会場へ行き、会場で懐しい会員多数の迎えを受けて話の後附近の飲屋で歓談後、リサーチしたホテルで一泊。翌日売残った菟索や小著を神田の悠久堂や茗溪堂へ依託して東京の友人に会ったりして、その晩中田宅で泊り浅草へ行き東武電鉄で葛生へ行き、バスで越沢口に行き其処から昨秋登り残した大島屋山へ向った。午前中小雨で草深い山道は濡れて雨具が必要だった。林道との分岐にテープがあり峠道を誘導してくれた。途中黒蝮が二匹見たが殺生をやめてひたすら登り道が茂って藪くさい処で雀蜂が一匹飛んで来て廻った。

要小心して止り腰を下ろして休むと間もなく左へ飛去り右手へ廻り込んで登って峠に出て稜線に出た。杉林の急坂を登って頂上へ。諏訪明神の石碑が傍にあった。

昼食後少し雨へ縦走したが、夕刻小林と約束があり早く官庁へ電話せねば連絡がむつかしくなると思って途中の尾根から右下に林道が谷へ入っているのが見えたので急斜面を下って谷奥へ下り山道を見付けて下って林道を川沿いに氷室に下山して、附近の郵便局で電話をかけて連絡後ヒッチしたりして葛生へ戻り東武で浅草へ。夕食をとってバスで上野へ出て池袋で彼と待合せ、その夜は小林宅で泊り、翌日池袋から上野に行き東北新幹線で塩原へ向った。西那須野で乗換えてバスで塩原温泉へ。鬼怒川温泉行のバスに乗換えて鶏頂山荘入口で下車して車道を登り山荘へ。

リフトに沿って上り濁沼へ行き、途中ガスで横道へそれ少し時間のロスをしたが弁天池へ出て谷をつめ旧火口壁沿いの小道を辿り、急坂を登って山頂の釈迦ヶ岳1793mの一等三角点へ。ガスで

展望は駄目だったが山頂近くで地元の青年とすれ違った。小憩休んで下山、弁天池でかの青年と出会い酒沼を通り山荘へ。車で来ているとのことで、奥塩原温泉迄乗せてくれた。その晩は旅館で一泊し薄乳白色の温泉に浸り旅の汗を流し疲れを医した。

翌22日朝から霧雨でバスで鬼怒川温泉へ行きバスで日光へ行ったが雨で白根山は無理と思い宇都宮へ行き、旅館で荷を預けその日は将棋クラブで夜遅く迄遊んで帰り一泊。翌日、日光へ出てバスを乗りついで湯元温泉へ。昨秋福本と泊った紫雲荘へ行き一泊したが、翌日も雨で又一泊し、9/25漸く雨がやんだので出発。スキー場からの登路を前白根山へ。途中天狗平を通して岩が多い急坂を登ると、前白根山で接線の楓や漆は紅葉していた。五色沼を右に見て急坂を下ると避難小屋で仲々立派なものだった。一休みして又急坂を登り社のある山頂へ。三角点はこの先の岩峰上であり盤石が出ていて標石はない。昼食をとって休んでいると、東京の高校教師が上って来た。車で来たので又バックするとのことで、私は菅沼へ下った。北東に下ると急坂で、始めは露岩の山肌はやがて樹林帯となり阿弥陀池へ。こゝで金精峠の道と分れて左の池畔を通り座禅山を北に下ると下に菅池が見えて来て林道へ出て菅池のキャンプ場へ。売店や駐車場があり、店でコーヒーを飲み一服して入園料50円を払って菅沼キャンプ場へ入り、写真をとってバス時間をつぶした。バスで沼田へ出て汽車で湯檜曾温泉へ行き旅館で宿泊。翌26日久しぶりで朝青空が見え、一の倉岳へ土樽から登ろうとして国鉄で土樽へ行ったら、トンネルを出ると雨で仕方なく土樽の山の家へ行き時間をつぶしてヒゲの爺さんの5男の高波菊男氏と会って話をしていたら、恩師森本次男の兄猪谷六合雄が昔土樽で息子の千春にスキーを教えていて私と学校が一緒であったとか、又母がよく猪谷さんと会ったとか聞き、世間は狭いと感じた。

彼は明日苗場山の山の家へ用があって登るとのことで、同行することに決めて一泊した。山の家と云ってもホテル並で裏に鬼グルミの木があり、美しい北歐風の建物であった。

沢山の蔵書を見たり、午後晴れたので附近を散歩したりした。飯土山がよく見えた。9/27、ライトバンに乗り出発。湯沢から減川の林道をつめリフトに乗り、和田山荘へ行き一服して下の芝・中の芝と登り神楽ヶ峰を経て山頂の山の家へ。三角点は小屋の後にあった。

ガスの為展望はよくなかったが、鳥甲山や速く岩菅が霞んで見えた。もう一軒下に小屋があり、衣食付で泊まれるそうだ。昼の弁当を食べて一休みして下山。迎えの車が来るのを林道終点で待ち奥さんが子供を連れてやって来た。湯沢迄送って頂き、新幹線で上野へ。中田と翌日会い荷をまとめて返子の叔父宅へ行き一泊して帰京した。

藤内壁

台川敦美

次の公休日の予定の有無を尋ねられて「いや、別に何の予定もありません」では一緒に行きませんか、と広沢さんよりお誘いを受けて急遽、藤内へ行くことになる。早朝に青空が広がる鈴鹿スカイラインを通り抜けて、AM7時20分に蒼滝の駐車場へと着く。登攀一式は結構重荷なので、私のザイルは彼のザックの中へ移動、それでも汗をかきかき兎の耳の水場までガンバリ小休止。

テスト岩よりールンゼに入りAM8時30分に一の壁基部に到着…ここにザックをデポして登攀具を付けて出発。ールンゼを越えて中尾根バットレス東面に取り付くが、キャセイ・バシフィックルートには女性二人と男性一人のパーティが先行していましたので、こちらはノーマルルートより登りましたが、この取付点横のバンドには大きな岩塊が今にも落ちそうに止まっています。

これは最近に上部より落ちてきてこの岩棚に止まった岩の一部分だと思えます。(岩と雪の112号に記事が出ています)ですからこの下で取付点となるキャセイルートは要注意です。

一ピッチ目のこの壁の傾斜は金毘羅のKルートより少しきつい目と思えますが、岩質が花崗岩なのでフリクションはよく利きます。(魔法の靴ならより楽ですよ。)しかしボルト間隔が遠いのでトップを行くと小さなホールドを探しつつ、足はミシンを踏むと思えます。

ビレーをとって、ハイ!! どうぞ、と言うと広沢さんは例の通りで、アツというまに次のビレー点へ到着即解除の声、それでは「お願いします。」と出発…手の平の汗がきつくて指先から手首あたりまでチョークで真白にして登る。

次は左手のハングは避けて右手のガリー気味の所から棚に乗りカンテの基部へ進んでビレー点となりますが、セカンドは楽で高度感のある風景が楽しめました。この先は短かいながら垂壁でボルトが二列に並んでますが、片方の使用は錆がきつくて駄目ですし、また二本ともリングの飛んでいるボルトもあり、シュリングでのタイオフが必要でアブミ上段に乗っての作業は苦しいと思えます。今回は広沢さんの真似をしてアブミを使わずにシュリングで済ますトレーニングをしましたが、トップを行くときはとても出来ないことです。

ビレー中にお隣りのパーティは如何かと下方を眺めると、若い女性二人がトップ交替で時としてずり落ちながらも登っています。中年の男性はコーチ役らしくてビレー点の下方にぶら下ったままで指導してる声が聞えています…この様子を見てはいくらシュアクラスの私といえどもまだまだガンバラなくてはと考えさせられた。

またこのバットレスの他のコースはと目の届く限り見ましたが、東面のふたつのルートがよく登られている様子ですが、他のルートはボルトの錆がきつくて最近あまり登られてないようでした。

下山はバットレスと三段ハング上部の藪の中の小道を後尾根の方へと移り、一の壁の上の壁を一

度懸垂して一の壁の上に立ち左側のルートを下りてザックのデポしてある基部にAM 11時20分に戻り昼食。

出発する時には、今日は土曜日なのに案外と人数が少ないものと話をしましたが、やはり昼すぎからは多くのパーティが現れて一の壁に一度に5パーティが取付いてザイル交差してるのもあり、近くの若い人に聞くと日曜日にはザイルのスタレが出来て登るのに順番待ちをするとのことだったのでビックリしましたが、我々も見ればかりでなく登りましょうとまず正面右トラバースルートをお願いして引っぱって頂きました。出来る限りフリスタイルで登ろうとガンバリ、三ヶ所程むつかしい場所がありました…ひと汗かいてまずは成功。

次に三番ルートですが、途中のレイバックは少し不安感があり左へ逃げましたが、セカンドなのだから少しは無理をして登った方がと気がついて後のまつりです。最後にダイレクトルートですが、ここは難かしそいでコースを見るとハンクもあり上部は全体にかぶってます。しかしセカンドは最後の手段がありますので観客の多いのが気になりますが、ビレーをとって、ハイー どうぞ!!ハンク下では少し苦しそうに見えましたが危げなく通過…後も楽々と進みオールフリーで登って初見とはマイッタ、マイッタです。

技術と体力に差がありすぎるとセカンドでついて行くのも辛いものです。ハンクの手前まではなんとか行けましたが…それから先はAOでも四苦八苦で…泣言ばかりになりました。

PM 3時20分、本日これにて終了でホッと一息、壁の基部に腰をすえて若い人達の登るのを眺めて楽しみ、PM 4時に下山にかかる。6月の豪雨の為に雑誌に書かれていたチスト岩附近の沢は動きやすいゴロ石の積み重ねになってますので通過に際しては要注意です。

兎の耳のテント場には多くのテントが張られていて羨ましい限りで、休みがあれば沈黙したい気持ちでした。テントの中には京都某氏と大きな字で書かれたのがありましたが、兎の耳に取りついていていた広沢さん顔見知りのクライマーで声をかけて小休止、この岩場のグレードに話に花が咲きました。藤内小屋の下手では電柱の前の大岩でボルダリングをする若者がおり、ワンムーブの動作を見学。

駐車場までの山道は美しい瀬や滝壺に満ちた水の色がなんともいえぬ風景で疲れを癒してくれます。駐車場から電話をかけるために湯の山駅へ行き、用を済ませてスカイラインに戻り帰路につきましたが、国道一号線に出る手前の青土村附近の畑で野性の日本ザル5頭程を発見し、珍らしさの為に車を止めて眺めつつ…こんな所にもエテ公が出てくるのですかと話に花を咲かせつつ無事帰京する…谷川岳のショック以来ビッチの多い岩に登ってませんでしたが、ひさびさに高度感のある登攀を楽しんできた事を報告いたします。

葛 城 山 (△959.7)

井 上 一 夫

好天に恵まれた敬老の日の9月15日に奈良と大阪の境いの葛城山へ登って来ました。この日はここ数年来、津田さんの敬老登山を行なっています。またこの日は計らずも津田さん(59才)を最高にして柳田さんの息子(具孝君5才)を最年少にした三世代(の年令構成)登山となりました。

葛城山は京都からだと結構時間が掛りました。近鉄京都駅をAM7:44に出発する橿原神宮前行き急行に乗車して葛城山の登山口へはようやく9:40に到着しました。登山口で服装等を整えて出発しようとしたところ、登山道が通行止めであると書かれた貼り紙がロープウェイの駅の改札にあるのを見つけました。こりゃ、えらいことやとロープウェイの職員に登山道の状況を聞いたが要領を得られずにいると、奥から世慣れた別のおっちゃんの職員が出て来て、曰くが、「私が行けると言っただけでも起きたら責任もてへんしねえ」との事でした。(何も責任もってくれなんて言っただけでいい)と心の中でつぶやき、(道の状態も解らず『通行止め』なんて誰が貼り出したんじゃい、責任者出てこい)と何と無く割り切れない気持ちで、津田さんと相談して、行ける所まで行って、だめなら引返そうと決心して出発した。

津田さん以下参加者12名は、足どりも軽く歩きだした。柳田ジュニアも休憩したがる大人を尻目に「早く行こうよ」と全員を引張っていた。途中の足場の悪い箇所や山崩れの後の危険箇所も軽く乗り切って、谷川では自分で丸太の橋を渡したりする等、何とも大したものだ。津田さんも谷尾さんをエスコートして、余裕のある所を見せていた。

足場の悪い箇所も2~3ヶ所あったが、意外に早く昼食予定地のキャンプ場へ到着した。キャンプ場内での火気の使用は炊事場以外ではだめだと言われた。今日はずくづくついていないなあと思ったが、入場料(1人、100円也)を払っている分、ねばった。燃料が炭ということでもあり、火気には充分注意して石油の18ℓ缶を半分に切った容器に入れて木の台の上ではやってはいけないという条件で許可をもらって、ようやく昼食の用意に取り掛った。

手頃なコンクリート製のテーブルがあったので、石油缶の上に置いて炭の火を2ヶ所でおこした。炭というのはなかなか火が付かないものである程度付いた頃に金網を乗せて、いよいよ肉を焼きだした。赤々とした炭の火に肉も頃良く焼けてきた頃にビールで乾杯した。炭の火が増々赤くなって肉の焼けるスピードが早くなった時、突然1つの石油缶が一瞬ボンという純い音とともににはじけた。一同は何が起ったのか訳が解らなかったが、網の上の肉が火の付いた炭もろとも辺りに飛び散ってしまった。

状況を良く見るとコンクリートの台のモルタル部分が粉々になっていた。どうもモルタルの水気が炭火の熱で爆発したようである。とんだハプニングにも全員怪我も無かったので気を取り直して

再び炭焼きの用意をした。もちろんコンクリートの台から降して地面の下であるが…。

昼食後、いよいよ葛城山の頂上を目指した。キャンプ場から約5分程で頂上に到着したが、三角点での万才は回りの人が多かったのでやめました。空は雲が多く遠方への視界もやゝ悪かったが、南の金剛山が真近かに見え、奈良盆地や飛鳥地方も手に取るように見えた。空を見ていてどうも天気が下り坂のようなので、早速下山の準備をした。下山路には自然研究路を経由してロープウェイの北側の道を取った。

途中、雨の流れで深く落ち込んだ所もあったが、余り問題も無く登山口に到着した。多少ハブニングもあったが、今回も楽しい山行きであった。

〔参加者〕 津田 実、谷尾、竹田、柳田、柳田 F1、大杉、井上

（ゲスト） 古川、西村、三島、浜田、沢田

〔コースタイム〕

京都 7:44 → 樞原神宮前一尺土一御所 → 9:40 登山口（ロープウェイ前）10:00 ~ 11:50

キャンプ場… 14:05 山頂 14:30 … 15:48 登山口 16:50 → 御所 → 19:10 頃京都

秋 霖 美 濃 積 迦 嶺

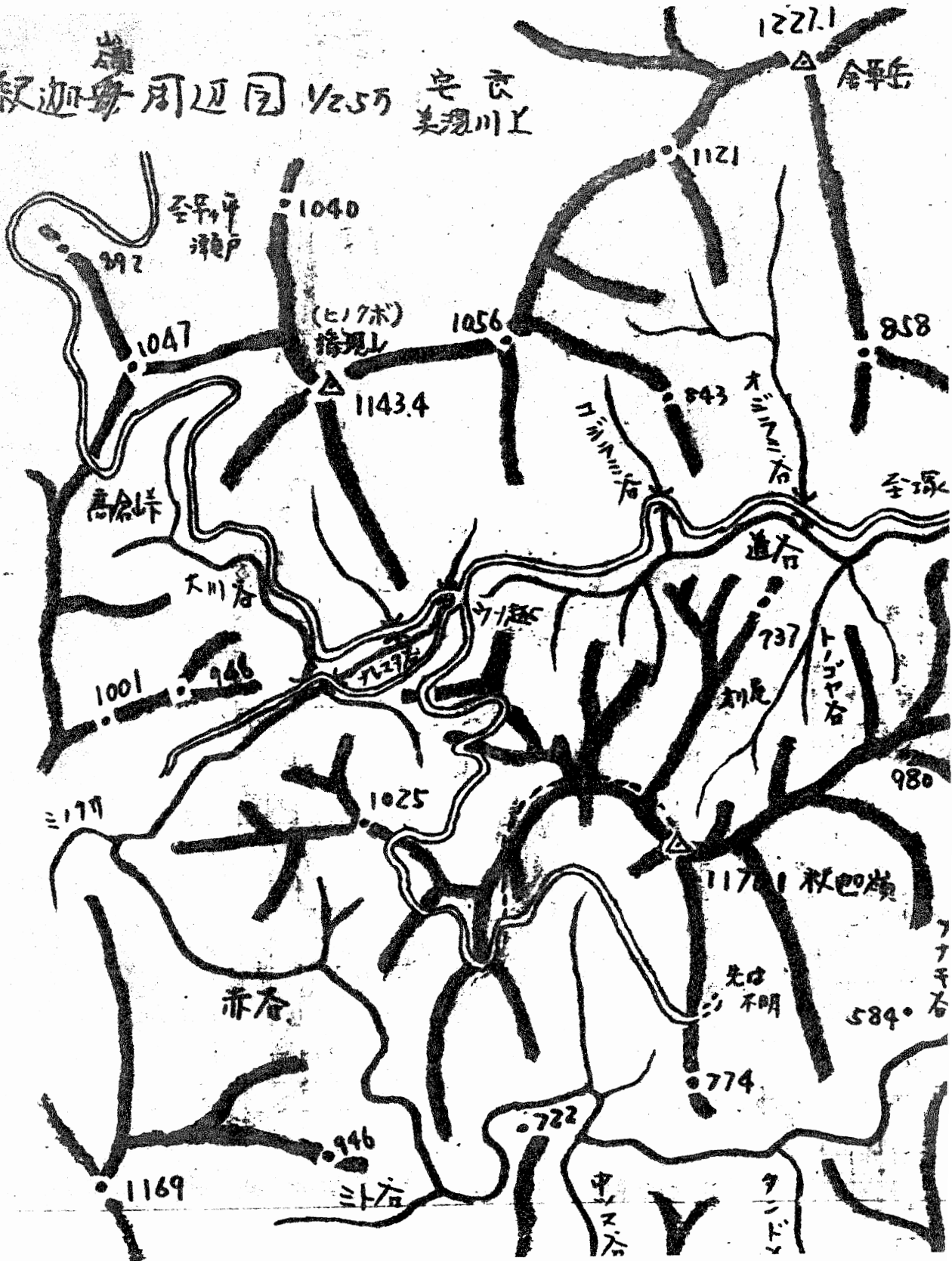
岡 田 茂 久

朝、4時半まだあたりは薄暗い。最近是我が愛車は調子が悪くあまり山行きに使用することがない。バイクを曳きだしていると、お向いさんの家でもゴソゴソ音がしている。釣り狂ちの旦那である。顔を見合わせてニヤリ…「山でっか、雨降りませ」。「釣りですか、頑張ってますな」。道は違えど病い膏盲同志の何度か繰り返した朝の挨拶である。

久しぶりの個人山行である。メンバーとして大槻、吉田、三橋の面々との同行で、当初は笛吹川や不動千回沢を計画したりしたが、ここしばらくの天候不順と気温低下に戦意喪失、急拠美濃の積迦嶺になったものである。おもいがけずころがりこんだ積迦嶺で、ほんとうはもっと違った意味あいで登りたかった山ではある。

『塚の奥で、揖斐川源流は又二つに分かれる。その南北に分かれた支流は其の間に積迦嶺という（1175.4）山を抱いて西行し、江美国境の、今は既に踏跡すら無くなった昔の峠道、高倉峠を下って来た点で、殆ど相接するばかりに小分水嶺を持っている。…次川谷をすぎてナレ又谷に入る。谷は益々源流らしくなり、…半丁も行かないうち、高度にして二十米も登らない間に稜線に達する。……この乗越をウソ越という。いづれは山棲人のつけた名称に違いないが、実にこの峠の感じをよく現わしている。分水嶺は峠などという感じが全く現われない。積迦嶺を繞る悪い谷がこの小峠で二つに分れているとは思えないのである。ウソの様な峠、純朴な山棲人がその感じをそのままに表現した、これは珍しい峠である。』 坂井久光先輩の恩師、森本次男氏の名著『樹林の山旅』の

美濃川上 宅衣 1/25万 岩 叙遊舟 周辺図



一節である。

この『樹林の山旅』の世界。道標もなく地図と山勘しか通用しないこの魅惑の山々に中毒されつつあった頃でもう二昔も前になるか。

坂井先輩の『釈迦嶺は二つの谷がぐるっと廻って源流はほとんど同じところから流れだしとる。赤谷と道谷ゆりのやけど、アマゴやらイワナがうようよしとって手拭で掬えるくらいや。』との話にのせられ、大沢のトオル君やいまは亡き宮さんと北陸線の夜行列車と今庄駅前の渋るタクシーをくどき落とし、瀬戸から高倉谷に入り、当時すでに数軒を数えるのみであった高倉の部落から、もう暗道化していた高倉峠を越え、大川谷を降り赤谷に踏みいった。結果は坂井名人の秘伝のほどきもむなく、惨憺たるものであり名人の邪魔をするばかり、さすが憐れんだ名人からアマゴを三びきづつ土産に恵んでもらい、痛む足をひきずりながら退却した。おまけに瀬戸の村では漁業組合のものと名乗る老人から、「赤谷にはこんな魚はおらん。瀬戸の谷で釣ったんやろ、入漁料を払ってもらわな」と我々の説明に耳をかしてくれず、往生した馬鹿らしくも懐かしい思い出がある。

それでも旅人の絶えた高倉峠の草原に輝く小さな池塘の彼方に、黒々と釈迦嶺がたちはだかっていたのがいつまでも心に残っていた。嶺を巡る二つの谷の不思議な地形と、高倉峠から望む釈迦嶺の強い印象を二十年にわたって抱き続けてきたのである。

しかし高倉峠を林道が越え、釈迦嶺にも林道がついているという話を聞いた頃から、わが思い出のアルカディアであった高倉峠への恋ごころも色褪せ、どこかの山の帰りにでもといった軽い気持ちに変わっていたのも事実である。

北陸自動車道に入った頃からワイパーは忙しくフロントガラスを拭きだした。瀬戸の集落で高倉峠への道を訪ねると芋ヶ平からとのこと。芋ヶ平はかつて雪の金草岳に登った折のこと、村人の好意で雪の夜の宿を道場（浄土宗の教会）に泊めてもらうことになった。思いがけず歓待されたのは意外だったが、道場はカメ虫の巣、ゾロゾロウヨウヨとシュラフの中まで入りこむ始末、つぶせば悲劇で悪臭地獄、一晩中身動きもままならなかったものだ。当時すでに過疎の兆候は色濃く、老人ばかりだったのを思いだす。いまはもう集落の跡形もなく、雨に濡れそぼったススキが茫々と生い繁っているばかりであった。

芋ヶ平の跡を過ぎ、林道は藤倉谷をぐんぐんと高度を上げていく。今日は林道走行用の装備を施した吉田君のライトバンであり、少々道の悪でも安心である。

林道が892mのピークを廻りこむと高倉峠であった。あの三日月形の小さな池塘はどこえやら、立派なトイレが建ち、一部舗装もされるのかグレーダー等が駐めてある。小雨とガスで展望も全く無く、なんの感慨も無いまま寒さに車中に逃げ込む。峠の岐阜県側はウソ越えまで林道補修工事が施されており、近いうちに立派な道に生まれ変わるのが予想される。ウソ越えはなんの変哲もない林道の分岐と化していた。

当初の予定ではウソ越えから稜線づたいに釈迦嶺に向かうつもりであったが、雨の中を歩き出す勇気の出ないまま、地図にある釈迦嶺からの尾根に向かって林道を登る。

地図では500mほどの延長であるはずが、どんどん高度と距離を延ばすではないか、乗用車ではと

でも走れぬ道だが、まるで頂上まで続きそうな感じである。あいかわらず小雨とガスで現在地はおろか林道の敷設位置さえつかみかねる。林道を3km程も走行したか、道が下りの様相を呈した地点の先で駐車する。感じとすれば高度といひ30分程の登りで三角点と思われる地点である。

雨あしはいちだんと強くなってきたが、今日のメンバーは意地っぱり同士、内心イヤダナと思っ
ていても誰もいいたさず、なりゆきで「いっちょういこーやないか」となってしまった。

手近のルンゼから取付きブッシュに突入する。いったん雨の中へでてしまえばいちばん高い処が頂上じゃ、30分ぐらいのもんやろと気楽なものだ。ルンゼを抜けるとガスに煙る高みが覗える。それいけと根曲り竹を懸命に漕いで達してみれば単なるコブ。次々に現れる偽頂上に瞞されるにつれ真剣になってくる。辺りは美濃特有の濃密な藪と化してきた。それでも意地っぱり達は俺のルートが正しいとばかり、各々バラバラに藪を漕いどる。トップの小生が尾根上の思わぬ処にあった沼に膝までズブリ、もがいていても手を貸さばこそ、「アッハッハ、こっちあかん、あっちいこ」なんとも恐ろしい仲間達ではある。

ボカリと根曲竹と灌木を伐り開いただけの三角点への到達には、二時間も費やす必要があった。雨は音をたてて根曲竹の葉をたたき展望はまったくきかない。それでも猛者達は傘を払って三角点の周りに座り込んでラーメンを煮き酒盛りを始める。他からみれば全く狂っているとしかみえないだろう。さすがに寒くなって立ちあがったのは小1時間もたっていたらうか。降りには1時間もあればとたかをくくり甘くみたのが運のつき、赤谷側に下りすぎたり道谷側に迷い込んだりしたあげく、1時間後に着いたのが元の三角点でガックリ。見事なリングワンデリングをやらかした。時間はたっぷりあるとはいふものの小々焦りがでる。地図と磁石をニラメッコ。灌木に登って様子を見ようとしたが、濡れた樹皮は容易には登らせてはくれない。ようやく木の股にずり上がり、幸いガスの隙間よりルートを見つけ、ほっとしたとたんはずり落ち急所を強打。しばし樹上で目をまわし便意をこらえる。なんやかんやで結局もとのルンゼの入口に降りつくのに3時間もかかってしまった。帰途はウソ越えより道谷を下り、塚より横山ダムを経由し帰京した。

永い間想いつづけてきた釈迦嶺登頂はなんともあっけない印象を残して終了したが、このメンバーにしてこの山行形態、雨の中とはいえなんとも痛快にして面白い山行であった。

〔参加者〕 大槻雅、三橋、吉田、岡田

〔コースタイム〕 9月22日 (雨)

京都 5:00 - 瀬戸 7:00 - 高倉峠 8:00 - 林道駐車地点出発 8:50 ... 頂上 10:50 ~ 11:50 ...

再度三角点 12:50 ... 林道駐車地点 15:10 - 塚 16:00 - 関ヶ原 17:50 - 京都 19:00

山癡雜記 二十八

彼の忌、但馬、妙見山

伊 藤 潤 治

こんなに早く、その日が来るとは夢のようです。今でも壬生で、或いは四條線の電車の中でお会いできるような気がしてなりません。

先日はご丁寧な貴稿を頂戴し、久しぶり部報に伊藤さんのお名前を拝見できると喜んでおります。

また十二支会申歳例会へのお誘いと、かつ、それへの参加を許され大へんうれしく存じております。頂度たん生月のたん生日の一週間前に先輩諸兄、先生方とともに干支の山へ登れるその日を待ちわびております。何かと迷惑をおかけすることと存じますが、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

昭和7年6月17日生 申歳

今年も北野天満宮の「ずいき祭」がすんだ。わが家では、昭和九年以来のたのしい「ずいき祭」である。その「ずいき祭」に、昭和五十七年から切なく胸にしみ入る風が吹くようになった。

そよそよと忍び寄り、わびしくも鮮明なるかざかざの思い出。そのなつかしき幻影こそ、今は、せめてもの慰めである。

その彼は無類の山好きで、山登りには目がなかった。それで今年から好物であった山登りを行って、いささかなりとも供養になればと、発願したのである。

予定は「宮崎日出一兄の、山岳巡礼第四十七号」により、滝ヶ岳と霧晴峠（白川村）で、彼も喜ぶ筈であったが、にわかに「ずいき祭」を在宅させられ、山行日程は残念ながら短縮し、苦慮の揚句、これなら文句はなかりと日本山嶽志より「妙見山（別称 石原山、但馬国養父郡ノ北西方ニアリ、八鹿村大字日畑ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百六十尺。（日本名勝地誌）、大樹蔭 蒼、山色特に深翠たり、海舟より遠く之を望み以て標準と為す所なり。〔石原山八景、徂来ノ咏詩アリ〕」、省略するが「大日本地名辞書（吉田東伍）」は、さらに詳細である。を選んだ。

妙見山はふるからの名山中、しかも藪は大物のようであり、彼の機嫌も悪くはないだろう。私の登路は作（つくり）山に決っていたが、彼を想えば、名草神社のコースである。

五時に家を出て、名草神社の天然記念物、夫婦杉に駐車したのは九時だった。少憩して作山道にかかると、妙見山には八鹿山の会によって、去る九月十五日、登山道が開かれ「頂上へ二時間十分」の打標があった。この事は、約二キロ手前の案内板で既に驚いてきた。

緑濃い杉木立の道には、かつての道しるべの石仏がお立ちであって、本日の念願にふさわしく思

えてありがたく礼拝していく。

峠には、十三町と三十七町をしるす石仏二体の外、八鹿山の会による「妙見峠、1022m、山頂へ一時間十分。作山へ。名草神社へ」の指標があった。

五時出発の理由は、登山に八時間を見込み、峠から山頂の往復を四～五時間と計算してきたからであった。それが、この短時間である。近頃私には、こんなほろもうけの山行はない。約十分で、大谷の頭。また約三十分で、はやくも妙見山頂上標についた。そこから最高点は、西 南わずかにある。ときめきながら灌木林をいくと、ある筈のない「やぐら」があり、一瞬目を疑ったが、朽ちていても紛れなき錐状「やぐら」で、あまりの事に思わず万才をさげふ。

その時彼の声がし、にこやかな姿が今にも現れる幻覚を経験したのである。一緒に登っているのだろうか。彼の情熱と友情は限りなく広く大きかった。とりわけ先輩を大事にしてくれた事は、忘れられない。いろいろとたどれば、彼への追憶には果てしがないのである。大ナルを経て名草神社にもどり、彼の冥福を祈った。彼を思っているのは決して私だけではないのだが、私は私なりに彼を思っている。それを日頃うまく表現したいと考えていたが、去る九月十三日の朝日紙に、思うのがあった。借用すると、「人間は誰(だれ)でも、その肉体の死の瞬間に、この地上から完全に消えてしまうものではない。彼あるいは彼女は、その人を知っている肉親や知友やのなかに記憶として生き残り、それらの人々がひとりずつ世を去って行くにつれ、次第に死んで行く、というのが実情である。その場合、その人の日記とか手紙とかが残っていれば、生前に直接には交渉のなかった人たちにまで、その生命の残光を拡げて行くことができる。(中村真一郎)」

追憶にはまったく余す所のない玉稿である。だから、いわれているように彼のたどった生涯の数々を並べるなどして、彼をこの世に長くとどめておきたいのである。私としては、彼の忌登山をつづけたい。次は、彼と登った山のよく見える頂きに登るのがよいと、考えている。

1985.10.12

例 会 報 告

例会No	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1552	鳳凰三山	9月15日	雨	吉田 武	古市 昌造 (武田 喜久郎)	天候悪く展望がなく残念であった。別稿報告
1553	鳥帽子と 夫婦岩	9月29日	雨	岡田 茂久	津田、方山 鷺見夫妻 三橋夫妻 和田、大木 吉田、荒田	あいにくの雨降りであったが、榎峠△344.1mと鳥帽子山△512.5 及び夫婦岩△597.7mと三山登って遠坂峠の温泉に入って、さっぱりとした気分

						で帰ってきた。 別稿報告
1554	親不知	10月10日	晴	岡田 茂久	津田、方山 鷺見夫妻 和田、三橋 功(中2)	久しぶりによい晴天に恵まれ、ル ンランランの楽しい山行きと なり、福知山市内に見える山頂ま でのんびり栗ひろいを楽しんだ。 次号報告

部 員 動 静

日 的 地	月 日	天 候	参 加 者	記 事
信州 美ヶ原高原 ～物見石山	8月25日	晴	田中 定勝	今年の年号 1985年に因んで登ろうと云うことです。 (コース) 四条大宮 8:00 一名神-中央高速-諏訪インター 和田峠…山本小屋…物見石山頂上にて歩こう会の 記念の標を立てる…山本小屋で一宿する
	8月26日	晴	”	山本小屋 8:00…美しの塔…塩くれ場…茶白山登頂 …扉峠駐車場へ下山…バスにて出発-霧ヶ峰八島 バス停下車-鷺ヶ峰登頂Uターンして下山する。 強清水-車山-白樺湖-すゞらん峠-ビーナスラ イン-鬼場(粟沢観音)-中央高速-一名神-帰着 21:30

雑 報

▲ 10月集会報告

11日(金) 岳連ルーム

出席者 本局 大木、川原、三橋、大槻、鷺見、方山
九条 古市 梅津 吉田 高速 岡田

テーピングとはスポーツをする場合傷害を受けそうな関節や筋肉を保護・補強する方法であり、久しぶりに集会に参加した川原君が7月頃からバレーボールで痛めた足の土踏ますの部分にテーピングをしてもらったところ痛みがなくなった。これで走れるようになった、と喜こんでいたが、効果の程を後日聞くと、大変調子がよく痛みは感じなかったとの事でした。

▲オリエンテーリングの入賞結果について 10月20日(日)天王山周辺

順位	参加者	ゼッケン№	タイム	備考
1	奥村 弘 信	4	1時間45分	
2	木下 嘉 造	10	1 " 57 "	
3	武田 親子組	8	2 " 09 "	
4	方山、三橋夫人組	6	2 " 15 "	
5	井戸 親子組	5	2 " 17 "	
6	大木 親子組	2	2 " 26 "	
7	楠、鷺見夫人組	3	2 " 46 "	
8	津田 実	9	1 " 58 "	ペナルティ 1

なお 前走及び後走として リーダー陣(鷺見、岡田、大槻雅)が担当し、ゴール地点は、OBの近藤さんにお願ひしました。

〔入 部〕 高野 竹村芳広 S 25.12.9生 (A型)

左、田中馬場町16 養正市住12-704 TEL 722-7038

▲部費受領

(OB) 松岡伊太郎、上原昭二、畑 照人

(市役所) 山崎文夫

(高野) 竹村芳広

(洛西) 竹井 章

(高 速) 滝 裕、宮川康博、伊達寿一

▲他山岳会 の会報について

京交山岳部報と交換している最近の他山岳会の会報をここに紹介します。なお 集会に持参しますので見て下さい。

10月28日	趣味の登山	341号(11月号)	京都趣味登山会
10月23日	近畿山行	215号(11月号)	近畿山行会
10月23日	木 雑	344号(11月号)	好山好会
10月17日	北 山	337号(10月号)	北山クラブ
10月11日	比良山岳	(10月号)	京都比良山岳会
10月 4日	青 嶺	254号(9月号)	京都山の会
9月30日	京都山岳	727号(10月号)	京都山岳会
9月30日	山 友	(10月号)	京都山友会
9月30日	蹴 渉 譚	16号(10月号)	大阪低山蹴渉会
10月29日	一等三角點	66号(11月号)	近畿山岳愛好会

帆 布・濾 布
テント・シート
雨 合 羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331(代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル
TEL (801) 1331
十条店 南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691) 8041
伏見店 伏見区柏香町西友ストアー4F
TEL (623) 0824
山科店 山科区音羽野田町1番
西友ストアー山科店
TEL (592) 9770 内線228

一年中、山用品だけの プロショップ

営業時間

午前10～午後1時と午後3時～午後8時
(午後1時～3時は閉店させていただきます)

〈定休日〉 火・水曜日

山・アウトドア プロショップ
ログケビン



京都市中京区御幸町通
蛸薬師南入
(四条河原町・阪急河
原町より徒歩約4分)

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店

あらゆる地図のご用命は

株式会社 小林地図専門店

600 京都市下京区烏丸通六条下ル
TEL 075(351)6598(代)
地下鉄：烏丸五条 6番出口南50m
市バス：烏丸六条下車

昭和60年11月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部



お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。



移転先 本店2階

京都市中京区西ノ京円町24

ダイヤ運動用品株式会社



まかせて下さい...ネ



☆在庫豊富にとり揃えています

☆山の道具は セヒ 御相談下さい

山とスキー専門店



河原町店 上・河原町通丸太町東入

TEL 222-0363

御婚礼
御引越



専門

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター

京都市山科区西野山階町12-12

TEL (075)581-3101

本社

東山区大和大路通四条下ル 541-2345

夷川営業所

中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端通丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442



京都 山とスキーの店
あろを

京都市中京区新町三条上ル

075-255-0288



この用具の事ならJニシが一番です!

御来店ありがとうございます
山とスキー レジャー スポーツ ショップ

そして

海の



中・二条通河原町西 TEL 231-1202